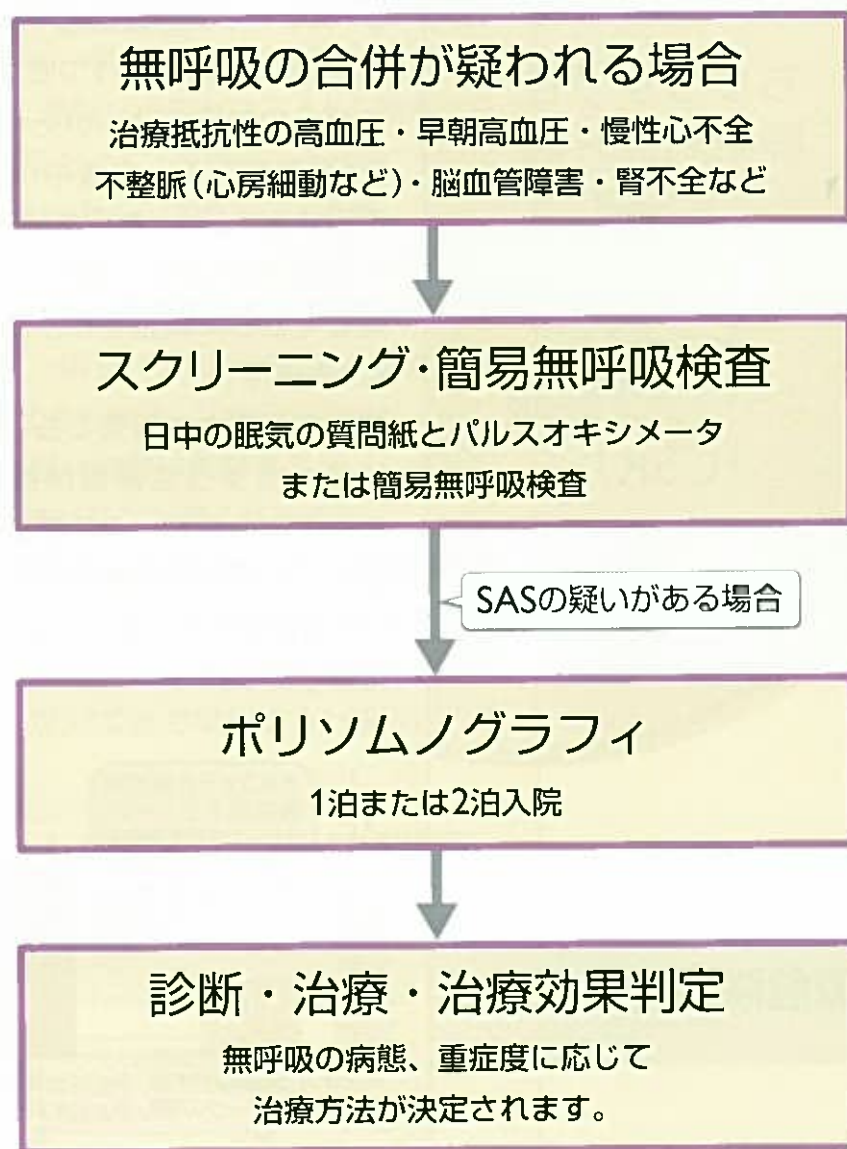


睡眠時無呼吸の検査

1 検査の概略と流れ

無呼吸の合併が疑われたら主治医に相談し検査を受けて頂くことを推奨します。就寝前に検査用の機器を装着し一晩付けた状態で寝て頂きます。検査方法には数種類あり、状況に応じてどの検査が必要かが決められます。検査の種類により自宅で出来る簡単なものから、入院して行う精密検査(ポリソムノグラフィ)があります。



2 検査の種類

パルスオキシメータ

指先にセンサーをつけて、血液中の酸素の状態と脈拍数を測定し、睡眠中の無呼吸を予測します。



簡易検査

呼吸の状態や血中の酸素の状態などを測定し、睡眠呼吸障害の程度(AHI)を求めることができます。AHIが40以上で眠気などSASの症状が明らかな場合、CPAP療法の対象となります。AHIが40未満であれば、さらに精密検査(PSG検査)が必要です。CPAP療法後の治療効果判定の検査として行なうこともできます。



ポリソムノグラフィ (PSG検査)

専門の検査施設等に入院して確定診断を行います。様々なセンサーを取り付け、実際の睡眠の質(眠りの深さや分断の状態)の評価をします。また、睡眠中の行動異常、不整脈などの評価も行い、他の睡眠障害、合併症の有無についても診断します。この検査でAHIが20以上であれば治療対象となります。

